

## 別紙 1

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3076 号	氏 名	坪谷 綾子
論文審査担当者	主査 向後 麻里 副査 加藤 裕久 副査 柴沼 質子		
(論文審査の要旨)			
<p>論文名「Coadministration of cytotoxic chemotherapeutic agents with irinotecan is a risk factor for irinotecan-induced cholinergic syndrome in Japanese patients with cancer (イリノテカン塩酸塩と殺細胞性抗がん薬の併用はコリン作動性症候群のリスク因子である)」</p> <p>イリノテカン (CPT-11) 投与によるコリン作動性症候群発症のリスク因子を明らかにすることを目的とし後方視的研究を実施した。</p> <p>CPT-11 を投与された全てのがん患者を対象とし、診療録を用いて患者背景、殺細胞性抗がん薬の併用数、分子標的治療薬併用の有無、CPT-11 の投与量などについて調査し、ロジスティック回帰分析を用いた多変量解析によりコリン作動性症候群発症に関連するリスク因子を解析した。</p> <p>179 例中 51 例がコリン作動性症候群を発症した。多変量解析の結果、CPT-11 と殺細胞性抗がん薬の併用によりコリン作動性症候群の発症リスクが有意に高まることが明らかとなった。一方、分子標的治療薬の併用はコリン作動性症候群の発症に関与しないことが示された。</p> <p>本研究は CPT-11 投与によるコリン作動性症候群発症リスクの予測及び安全な化学療法施行に有用な情報であると考えられる。主論文は当該分野における国際誌であり、掲載に当たって新規性や研究の妥当性、必要性が求められる医学誌である。論文に関する質疑においては論理的に解答し、その解答から広範な知識と新たな見識を有しているものと推察された。従って、審査委員は全員一致で本申請が博士 (薬学) の学位に値するものと判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)